

ベルリナー・フェストシュピーレ

企画展示部門：マルティン・グロピウス・バウ

財政所管部門：在ベルリン連邦文化催事有限会社

住所：Niederkirchnerstrasse 7, 10963 Berlin

Tel. +49 (0)30/254 86-0 ・ Fax +49 (0)30/254 86-107

post@gropiusbau.de ・ www.gropiusbau.de

2011年6月7日

「北斎」回顧展 - “日独交流150周年” 記念行事

会期： 2011年8月26日（金）～10月24日（月）

開館時間： 水～月曜日 10:00-20:00 （火曜日 休館）

主催：ベルリナー・フェストシュピーレ、マルティン・グロピウス・バウ
国際交流基金、ベルリン日独センター、墨田区、日本経済新聞

特別助成：石橋財団

後援：在ドイツ日本国大使館

チーフキュレーター：永田生慈

プレス担当：ウテ・ヴァインガルテン (Ms. Ute Weingarten) - artpress

Tel.: +49 (0)30 / 25486-236, Fax: +49 (0)30 / 25486-235

E-Mail: presse@gropiusbau.de / artpress@uteweingarten.de

広報担当：カトリン・ムンドルフ (Ms. Katrin Mundorf)

Tel.: +49 (0)30 / 25486-112, Fax: +49 (0)30 / 25486-107

E-Mail: organisation@gropiusbau.de

協賛：アサヒビール株式会社、ダイキン工業株式会社、富士フィルム株式会社
パナソニック株式会社、株式会社ヤクルト本社

協力：All Nippon Airways Co., Ltd.、株式会社ユーハイム

メディア・パートナー：

rbb fernsehen, inforadio, Kulturadio, Der Tagesspiegel, Exberliner

協賛：Wall AG, Dussmann. Das Kulturkaufhaus, KaDeWe, VisitBerlin

展覧会について：

日本が誇る、世界的に著名な芸術家北斎（1760－1849）の大規模な回顧展がドイツで初めて開催されます。北斎の最も知られた作品はおそらく「富嶽三十六景」シリーズ（1823－29）の「神奈川沖浪裏」でしょう。今回、ベルリンのマルティン・グロピウス・バウで開催される回顧展では、440点余りの作品がご覧になれますが、僅かの例外を除き、その殆どが日本から出品されます。北斎芸術研究家として、第一人者の永田生慈氏がキュレーターを務めるこの展覧会は、ベルリンのみで開催されます。70年間に及ぶ北斎の創作活動の各局面から版画、絵手本、挿絵入り読本、肉筆画等が展示されます。

アメリカの「ライフ」誌が2000年に公募した「美術史において最も偉大な業績をあげた芸術家」の中で、北斎はピカソより上位の17位に選ばれました。70年以上の長きにわたる北斎の創作活動を網羅した今回の回顧展は、この偉大な芸術家の天才性を余すところなく示すものと確信しております。生涯、30以上の画号を有しましたが、今日、世界的に有名なのはこの「北斎」で、「葛飾北斎」が正式名です。

1760年、北斎は江戸の一角、本所に生まれました。本所は現在の東京都墨田区にあります。江戸は1868年の明治維新後、東京と改められました。墨田区役所では、この世界的に有名な芸術家が生涯の大半をその区で過ごしたことから、北斎のための新しい美術館を作る計画を進めています。新美術館に収蔵される作品の一部が数週間、世界に先立ってベルリンでご覧いただけることとなります。それらの多くは日本から初めて出品される作品です。

北斎と浮世絵：

北斎の父親は江戸の近郊、浦賀の出身でした。浦賀は北斎の死後4年経った1853年、アメリカの海軍代将ペリーが「黒船艦隊」を率い来航した地です。ペリーは江戸幕府に、1635年以来続いていた鎖国政策を止め、開国するよう迫りました。北斎は、一時期、幕府御用達鏡磨師であった叔父の家の養子となりました。数え6歳ですでに巧みに絵を描き、12歳で当時、江戸に多くあった貸本屋に丁稚奉公に出、18歳ではやくも版画制作では一人前となりました。多色摺版画は1740年代から実用化され、1790年代には最初の全盛期を迎えます。北斎はその興隆に大いなる貢献をしました。一枚の版画を刷るために70枚に及ぶ判木が用いられることから判るとおり、それは多くの芸術家の共同作業でした。22歳の北斎は彫師であるよりも絵師であろうとしたのです。

当時、和紙の生産者と版元は、賢明にも紙のサイズを二種類（大判、中判）に限定しました。この合理化手段により、廉価にて大量の部数を刷ることが出来ました。

美人画、本所回向院にあった相撲場で活躍した力士絵、同じく本所にあった歌舞伎の芝居小屋の様子を描いた役者絵等が浮世絵（移ろい易く儂い世界観）の絵のモチーフとして多く取り上げられました。有名な遊里吉原も本所近くにありました。浮世絵は行商人により全国に売られ、その多くは一般市民に買い取られました。「浮き世」とは仏教的思想における「憂き世」、つまり「この世の物事はすべてはかない」という釈迦の教えを意味します。しかしながら、花や植物は自然科学的な精緻さで描かれました。1780年ごろ、既

マルティン・グロピウス・バウ（ポツダム広場そば）/お知らせ / 展覧会

「北斎」回顧展

開館時間：水-月 10時 - 20時 休館日：火曜日（臨時に変更する場合がありますので、ご留意下さい）

最寄り駅 S バーン: Anhalter Bahnhof / Potsdamer Platz U バーン: Potsdamer Platz

に650点も出版された小説の挿絵、あるいは古典物、例えば「源氏物語」の主人公光源氏の生涯の場面などもその時代の絵師ならびに彫師のレパートリーに数えられました。北斎は当時、1000以上の小説挿絵を制作しました。

当時の日本では、芸術面におけるヨーロッパからの影響は大きかったとはいえませんが、全く無かったわけでもなく、その一つとして、欧州で以前から既にもてはやされ、1770年頃から日本の市場に出回りだしたのぞき眼鏡が挙げられます。この機器は長崎経由でオランダ人によってもたらされました。その結果、日本の芸術家達も一点透視図法で描くことを学びました。例えば、一点透視による遠近法を用いたオランダ風景画は日本人にとっては未知の世界でした。日本の遠近法の伝統は異なり、その歴史的画法はずっと昔に遡ります。その当時、あらゆる分野における一般社会の生活シーンをのぞき眼鏡的に覗き見る「眼鏡絵」はその場に居るような臨場感を見る者に与えました。それはいわば18世紀のグローバル世界のテレビの一種とも言えるでしょう。北斎もまた「眼鏡絵」を制作し、「透視図法」とも緊密に向かい合いました。

江戸の人口は1700年頃、既に120万人にも上っていました。商人や武士、大名、公家など、裕福で気前の良い客が多く、そんな環境の下に北斎は育ちました。本の出版部数は、当時初版で1万3千部に及ぶものも少なくありませんでした。一枚の版木から同じ絵を数百枚を刷ることが可能でした。錦絵は百万の単位で売れました。北斎は画風を縦横に変えることのできた芸術家としても知られています。「漫画」の生みの親であったわけではありませんが、画例集「北斎漫画」は、今日なお世界的に良く知られ、復刻版が売られています。本来、「ただの」絵手本ですが、北斎の手によるおよそ4,000点に及ぶスケッチをもとに、1814年以来、合計15冊もの版本が作られました。今日の目でそれらを観察すると、当時の日本の生活がつぶさにわかり、情報にあふれ、しかもそれらが驚くべき精密さで描かれているのです。北斎は肉筆画も150点残したとされていますが、そのすべてが現存しているわけではありません。「自画像」をはじめ、いくつかがベルリンでも展示されます。

北斎はほぼ90歳となり、その画業は70年余にも及びました。晩年になってもその創作意欲に衰えはみられませんでした。彫師や図案家というよりも画家として見られることを望んだ北斎は、1834年刊行された「富嶽百景」の後書きに次のように記しています： ”私は（数え）6歳から、身の周りのものの姿を絵に写してきた。50歳の頃からは随分たくさん絵や本を制作してきた。とはいえ、70歳までに描いたものは、取るに足らないものばかりである。73歳になってようやく、動物の真の成り立ちや草木の生成についていくらか分かってきた。ゆえにもっと精進すれば、80歳になってさらに腕は上達し、90歳ともなると、奥義を極めることができるかも知れない。そして100歳になったら、画筆を自在に操れ、どんなものも生きているが如く描けるようになろう。長寿の神には、この私の言葉が世迷い言ではないことをご覧いただきたく願いたいものだ。“と。

ヨーロッパにおける北斎芸術の受容

19世紀におけるヨーロッパでの北斎作品への反響は圧倒的でした。鎖国時の厳しい管理下にあっても、北斎はオランダ人と直接交渉をすることが可能で、存命中に既に彼の錦絵と肉筆画はヨーロッパに渡りました。

マルティン・グロピウス・パウ（ポツダム広場そば）/お知らせ / 展覧会

「北斎」回顧展

開館時間：水-月 10時 - 20時 休館日：火曜日（臨時に変更する場合がありますので、ご留意下さい）

最寄り駅 Sバーン: Anhalter Bahnhof / Potsdamer Platz Uバーン: Potsdamer Platz

1817年から1822年にかけて、長崎出島のオランダ商館長だったブロムホフのために、北斎は40枚の絵を描いたとされています。ヴェルツブルク出身のドイツ人医師、フランツ・フォン・シーボルトは、1823年から29年まで、当時のオランダから医師として派遣されて出島に滞在し、今日なお、ヨーロッパ各地の美術館に収められている北斎の作品を収集しました。シーボルトによって、1858年に刊行された百科事典のごとき克明な日本研究書『日本』においては、既に北斎の一作品が転載されています。これをきっかけに、欧米における北斎の勝利の行進が始まります。1862年には、パリにおいて、最初の「日本芸術」展が開催されました。1893年、アメリカのボストン美術館では、アーネスト・フェノローサによって、西洋で初めての「北斎回顧展」が開催されました。1901年、ウィーンの国立工芸美術館では、600点以上の北斎作品が紹介され、1913年、パリでも大規模な展覧会が開催されました。1880年、欧州で最初の北斎研究書が刊行され、1896年には、さらにエドムンド・ドゥ・ゴンクールによって、2冊目も出版されました。当時、芸術の都パリでは、北斎および同時代の他の日本人浮世絵師達の話で持ちきりでした。幾多の画廊がおよそ50人もの日本人芸術家とヨーロッパでの専売契約を結び、買い手を競いあいました。その中には、北斎より少し年上の春信や同世代の歌麿、あるいは北斎よりもずっと若い世代の広重や国貞も含まれていました。その当時のヨーロッパの芸術家達は北斎の作品に感化を受け、彼の作品を収集しました：ドガ、ゴーギャン、ヤウレンスキー、クリムト、マルク、マネ（エミール・ゾラを描いた肖像画では日本の版画が背景に描かれている）、モネ（日本の版画を数百枚所有）、ミュッシャ、ピサロ、トゥルーズ-ロートレック、ホイッスラー、ヴァロットン、ヴァン・ゴッホなどです。サミュエル・ビングが、1895年にパリに開いた画廊は「アール・ヌーヴォー」と名づけられ、新しい美術運動であるアール・ヌーヴォー（「ユージェント・シュティール」）を全ヨーロッパに知らしめることとなりましたが、彼はもともと日本の芸術作品の美術商として出発したのです。日本の芸術は1860年から1920年にかけて欧米で大流行を巻き起こしました。しかし北斎はヨーロッパでのこの成功を自ら体験することはできませんでした。

歴史的回顧：1600年以降の江戸の発展

徳川家康は、戦国時代から続いた覇権を巡る闘争を克服し、日本に平和をもたらし、将軍として、1603年から1605年まで日本を統治しました。家康は当時、事実上統治権力を有していなかった朝廷がある京都から遠い江戸、今日の東京に幕府を開きました。徳川家による政府は、征夷大將軍を政権の長に据えた軍事的独裁政権と名づけることができるでしょう。将軍家は儒教の厳格な積義に従い、武士を筆頭にした硬直的な身分制度を導入しました。士農工商、すなわち武士の下には農民、次に職人、そして社会的階層の最下位には商人が置かれました。ただ、その最下層民が大金持ちになることは禁じられず、後年、幕府・諸大名の慢性的金欠病もあってか、帯刀権（武士の象徴）を買うことすらできたのです。1639年、90年間にわたり布教活動を行っていた欧州カトリック教会のポルトガル人宣教師達が、第三代将軍家光により国外追放されました（それより先1624年に、スペイン人宣教師はすでに追放されていました）。日本はスペインの植民地”フィリピン”と同じ運命を辿ることを避けようとしたのです。1600年以来、日本で活発に交易活動をしていたプロテスタントのオランダ人は、ヨーロッパにおけるカトリック教会の強大な影響力を幕府に繰り返し報告し、彼らのみが、江戸から1300km離れた長崎港の小さな人工島である出島で交易することを許されました。当時の日本人にとって、出

マルティン・グロピウス・パウ（ポツダム広場そば）/お知らせ / 展覧会

「北斎」回顧展

開館時間：水-月 10時 - 20時 休館日：火曜日（臨時に変更する場合がありますので、ご留意下さい）

最寄り駅 S バーン: Anhalter Bahnhof / Potsdamer Platz U バーン: Potsdamer Platz

島はヨーロッパへの「窓」でした。4年毎にオランダ人商館長は江戸に参府し、将軍にヨーロッパの現状と学術の発展状況について報告しました。幕府は1684年、二つ目の「窓」として、長崎出島の隣り合わせの島に唐人屋敷を設置し、ここで中国人が商館を持ち、交易することを許しました。朝鮮王朝とは正式に国交を持っていましたが、それ以外は1853年まで、日本は諸外国に門戸を閉ざし、”恒久平和”が続きました。1868年の明治維新にいたるまで、250年以上に渡り、徳川家は日本を厳格に統治したのです。

1635年、将軍家光の時代に制定された「参勤交代」制度により、江戸は当時として世界最大の都市に変貌しました。家光は大小200人余りの諸藩大名の動静を掌握するため、江戸に彼らの屋敷を持つことを義務づけ、家族とりわけ妻と長男は、大名が自分の領地に滞在していても人質として江戸で暮らすよう命じました。2年に一度、大名は江戸に参府し、高価な貢物を献上し、将軍に領地の報告をすることを義務づけられていました。その費用は莫大にかかり、程なく財政的に困窮する大名も少なくありませんでした。

江戸とその都市的な発展にとっては、大名屋敷設営の義務化は大いなる繁栄を約束することになりました。邸宅を装飾し、本の挿絵を描き、また絵を描くために、日本中の芸術家が首都に押し寄せました。江戸はこのようにして、経済的のみならず、芸術面においても国の中心となったのです。

大名の家格は自分の領地から採れる米の石高で計られました。最も力のあった大名は500万石の収穫があったということです。しかしながら、米俵で支払いをするのは面倒であったことから、大名達も米を換金したがりました。江戸の商人にとって、このことは願ってもないことでした。商人たちは米を銀貨で買い上げ、その米は、現在の墨田区に位置する隅田川河畔の倉庫に収められました。このようにして、商人たちは大金持ちになっていったのです。

芸術や書籍を愛好し、詩歌を鑑賞し享受することのできる富裕な米商人、その他呉服・金融商人、市民が集まるこの隅田川河畔に、芸術家北斎は暮らしていました。北斎が30代となった1790年代には、識字率が男性で70%、女性で50%だったとされています。1808年頃には600店の貸し本屋が江戸にあり、当時の状況としては、本の出版部数もかなりに上りました。江戸は挿絵版本や錦絵、肉筆画を高く評価する読者と通人に溢れていたのです。北斎の時代、活気ある百万都市江戸は、芸術家にとって天国だったのです。

展覧会図録：

ニコライ出版社、約400ページ、写真約400枚、ISBN 978-3-89479-688-4

美術館版：22ユーロ、書店版：39ユーロ95セント

入場料：9ユーロ 割引価格：6ユーロ 団体割引(10名以上)：一名あたり6ユーロ
16歳以下、無料

公式ガイド：

土曜日 16時（事前申し込み不要） 一人あたり3ユーロ、入場料 6ユーロ

ガイド案内は個人的にも申し込み可能、予約制

マルティン・グロピウス・パウ（ポツダム広場そば）/お知らせ / 展覧会

「北斎」回顧展

開館時間：水-月 10時 - 20時 休館日：火曜日（臨時に変更する場合がありますので、ご留意下さい）

最寄り駅 S バーン: Anhalter Bahnhof / Potsdamer Platz U バーン: Potsdamer Platz